

## わくわく体験航海

7月20日、上対馬町の小中学生及びその保護者が、体験航海を行いました。

比田勝海上保安署の協力により「はやぐも」に乗船した参加者は、海上を滑る様に航走する巡視艇のスピードに驚いていました。「また乗せてください」と話す小学生もいて、日頃体験できない海の仕事に興味津々、参加者にとって貴重な一日となりました。



## ビーズストラップ贈呈

7月7日、上対馬町のデイサービス施設「合歓の木園」で、施設を利用するお年寄りに、ビーズストラップが贈呈されました。

琴駐在所に2度目の勤務となった富永警部補が、地域への恩返しと、対馬北警察署で取り組む「きばろうで運動」の一環として行われたものです。

このストラップは富永警部補と奥さんのなまこさんが1月半かけて、70個を作りました。

「きばろうで」の合言葉のもと、県内で一番小さな警察署の地域への取り組みは、これからも続いて行きます。



## 白バイ隊訪問

7月6日、上対馬町豊小学校の1年生から4年生までの児童32名が、白バイ隊との交流学习を行いました。

白バイ隊員との交流を通して、地域社会における災害や事故から、人々を守るための仕事について興味や関心を高めてもらおうと行われました。

指導にあたった中村巡查部長は「白バイはシンボリックなもの。白バイを見て交通安全の事を思い出し、事故にあわないように気をつけて欲しい」と語り、また笹原巡查長は「素直で元気な子供たちですね。子供たちが事故にあわないで元気で生活して欲しいです」と感想を述べました。

## 対馬市商工会青年部 「若い経営者の主張大会」

6月25日、対馬市商工会豊玉支所で、「平成21年度若い経営者の主張大会」が開催され、豊玉町、美津島町、厳原町、上対馬町の各支部の代表者4名が、「青年部活動に参加して」と「青年部活動と地域振興・まちづくり」をテーマに、発表を行いました。

この主張大会は、対馬市商工会青年部員が一同に集まり、これまでの活動内容や、青年部活動に対する思いを発表し、組織の育成力向上を図るために、毎年開催されています。

最優秀賞は厳原支部の長瀬俊一さんが受賞しました。

長瀬さんは、青年部で学んだことや「厳原港まつり対馬アリラン祭」を通じて様々な経



意見を発表する長瀬さん



験をしたこと、またこの大きなお祭りは、自分たちだけでは成り立たない、地域の方々や、陸上自衛隊、対馬市職員等、そしてそれら全体を支える青年部が毎年準備から片付けまでいろいろな人々すべてが重なり合って一つの祭りを成功させていることを実感したそうです。

長瀬さんは、対馬市商工会青年部代表として7月10日に開催された長崎県商工会青年部連合会主催の長崎県大会へ出場し3位に入賞しました。

## 西部中学校職場体験学習

7月7日から7月9日までの3日間、対馬市立西部中学校の3年生12人が、陸上自衛隊や中対馬病院、峰郵便局、美容院など合わせて13ヶ所で職場体験学習を行いました。

この職場体験学習は、生徒に仕事の厳しさや楽しさを知り、自らの将来の仕事を決める時に役立ててもらうために行われています。

西部中学校の生徒たちは、「自分が思っていたより難しい仕事でした」「楽しくて、勉強になりました」などと話し、自分が将来なりたい職業に対し、目を輝かせていました。



アナウンサーの体験をする國分祐典くん



美容師の体験をする橋本優樹さん

## 対馬観光まちづくり支援自動販売機設置



駿であい塾「匠」にも設置され、売上の12%は、対馬の観光事業活性化を図るため、対馬観光物産協会に寄付されます。

6月23日、厳原町の厳原体育館で「対馬観光まちづくり支援自動販売機」の除幕式が行われ、自販機設置を提案した長崎県酒販と、コカコーラウェストなどの関係者ら、およそ10人が出席し、自動販売機のお披露目がありました。

自動販売機は、さわやかな印象のスカイブルーを基調に、表にヒトツバタゴ、側面に万松院の百雁木、烏帽子岳からの展望、三宇田浜がデザインされ、対馬の美しい景観や歴史・文化を生かしたものになっています。また、リサイクルや環境美化に配慮し、ゴミ回収ボックスが取り付けられています。

この自動販売機は、豊玉総合運動公園プール駐車場、シャインドームみね、体

## 美津島町海水浴場海開き

7月1日、美津島町勝見浜で、海開きが行われ、対馬市観光物産協会 中对馬支部会員、地元漁協関係者などおよそ20名が参加しました。

雨天にも関わらず、参加者は午前9時半に海岸に集合し、市民が安全できれいな海を楽しむようにと勝見浜から太田浜にかけての清掃が行われました。海開きの3日前にも清掃を行っていましたが、その後、流れついた流木や藻を中心に、多くのゴミが回収されました。

海岸清掃の後には、勝見浜で安全祈願の神事が執り行われ、海水浴期間中の無事故を祈りました。



## 社会を明るくする運動出発式

7月1日、対馬市役所本庁玄関前で、7月の「社会を明るくする運動強調月間」の出発式が行われ、対馬保護司会メンバーをはじめ、財部市長などが参加しました。

この運動は、犯罪や非行をした人の立ち直りを支えるため、法務大臣から委嘱を受けた31人の保護司の方々が中心となり行われています。

保護司の皆さんは、「黄色の羽」を胸につけて活動しています。これは、多くの方々にこの運動の趣旨を理解してもらい、協力してもらおうというねらいで、長崎県保護司会が、今年から取り組んでいるものです。



## ボーダージャムIN対馬



回はそれぞれの地から全7バンドが参加し、練習してきた曲を楽しみながら披露していました。

会場では、人々が音楽を通じ国境や言葉の壁を乗り越えて楽しんでいました。

7月11日、美津島グリーンパーク野外ステージで、対馬では今回2回目の開催となる、ボーダージャムIN対馬が行われました。

ボーダージャムは、アマチュアバンドの交流を目的としたコンサートで、音楽を通じて地域を明るくしようと、多くの協力のもとはじめられた取り組みです。

イベントは、2002年にスタートしてから、対馬、香岐、韓国の3か所で行われています。



## ありあけ祭り

7月12日、対馬市の白子地区で、今年で4回目になる「ありあけ祭り」が開催されました。この日は、幼稚園児から中学生までの106名が参加したロードレース大会で幕を開けました。

白子地区では以前、こども会が主催するほたる祭りを行っていましたが、こども会だけでは維持することが難しく、区が中心となり「子どもたちの楽しむ場所をなんとか残したい」という思いで、ありあけ祭りがスタートしました。

祭りは、ロードレースに引き続き、婦人会やこども会、運動クラブの保護者らの出店、映画上映、舞台での発表などが行われました。



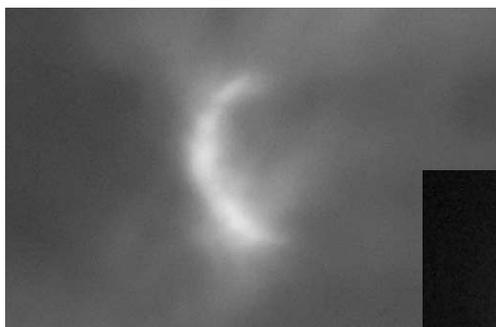
## 日本で46年ぶりの皆既日食

7月22日、午前9時30分過ぎに日食が始まり、対馬では部分日食が観測されました。

あいにくの曇り空でしたが、時折雲のすき間からのぞく部分日食は、肉眼でも見えていました。

巖原の街中では、道路の片隅で皆さん空を眺めて、簡易観測会が行われていました。

次回の日本での皆既日食は26年後に観測できるそうです。



普通カメラで雲間から撮影

特殊フィルムを貼っての撮影

